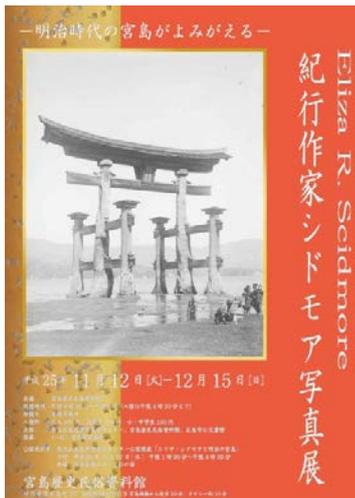


平成 25 年度 広島市公文書館・宮島歴史民俗資料館 連携企画展示報告

- 期 間：平成 25 年 11 月 12 日～12 月 15 日
- 会 場：宮島歴史民俗資料館
- テーマ：「紀行作家シドモア展—明治時代の宮島がよみがえる—」



米国の紀行作家エリザ・R・シドモア（1856～1928）が明治 27 年に宮島を訪れて撮影した写真（スミソニアン自然史国立博物館 国立文化人類学資料館所蔵）を展示しました。これらの写真は当時の宮島とそこに暮らす人々を撮影した、貴重な記録です。

宮島学センターは歴史資料をもとに写真を撮影するキャプションを作成、宮島歴史民俗資料館は明治の宮島と現在の宮島を比較し、写真が撮影された場所を示す地図を作成、広島市公文書館はシドモアの半生をまとめたビデオを作成しました。

三者の共同作業により、シドモアが「祝福された島」、「平穏と詩情があふれ、まるで進歩的な近代の日本から一世紀さかのぼったように感じる」「死や悲しみがほとんどとりはらわれた」＝「不朽の島」と表現した明治時代の宮島の姿がよみがえりました。展示期間中、延べ 2,134 名の方が来場されました。



また、展示の関連事業として 11 月 27 日に公開講座「エリザ・シドモアと明治の宮島」を実施しました。講座は 3 部構成で、第 1 部は宮島学センターの大知徳子助教が近世・近代の宮島の「旅」について、第 2 部は広島市公文書館の中川利國館長がエリザ・シドモアが見た明治の宮島について紹介しました。第 3 部は会場を宮島歴史民俗資料館に移し、写真展の観覧とギャラリートークをおこないました。ギャラリートークでは中川利國館長、宮島歴史民俗資料館の船附洋子さん、大知徳子助教が解説を担当しました。

